

東京中央郵便局新築工事概要

逓信技師 吉 田 鐵 郎

所在地 東京市麴町區丸ノ内二丁目三番地

敷地面積 11,750.10平方米

建築面積 7,014.19平方米

建築延面積 36,171.77平方米

階 數 地上五階 總地下室付)

高 さ 地盤面より扶壁上端迄三階19米
43、四階23米⁹³、五階28米³⁰、
屋上塔屋最高部迄31米³⁰

各階面積竝に室配置

〔地 階〕 7,429.50平方米

行囊整理室、行囊保管室、行囊清淨室、
配電控所、鐵道差立郵便物保管場、休憩
室、食堂、厨房、賣店理髮所、通風及煖
房機關室、電力室、電池室、湯沸所、小
使室、自動車係員溜及宿直室、倉庫、洗
面所、便所、浴室等

(1) 東京中央郵便局全景、左端は假局舎下端東京驛右端丸之内ビルディング。



〔中一階〕 336.00平方米

地下電車プラットホーム

〔一階〕 7,014.19平方米

通常郵便現業室、小包郵便現業室、發着臺(長さ126米) 窓口事務室、公衆溜、金庫室、電信課配達係、速對郵便係、外國郵便保管室、玄関、受付、應接室、洗面所、便所、浴室等

〔中二階〕 624.00平方米

差立行囊置場、物置等

〔二階〕 7,141.19平方米

通常郵便現業室、小包郵便現業室、第二年賀郵便取扱室、通常郵便課特殊係、通常郵便課調理係、通常郵便課書類保管室、小包郵便書類保管室、小包郵便課調理係等

〔三階〕 7,014.19平方米

外國郵便現業室、外國郵便課特殊通常郵便取扱室

第一年賀郵便取扱室、東京鐵道郵便局、東京驛派出所、小包郵便現業室、外國郵

便稅關檢查室、外國小包保管室、能率調查部、電信課書類物品保管室、外國郵便課調理係、電信課機械室、映畫フィルム檢閲室、稅關派出所、藥局、診察室、倉庫、湯呑室、洗面所、便所、浴室等

〔四階〕 3,706.56平方米

局長室、會議室、應接室、圖書室、書庫、講話室、庶務課、庶務課書類物品保管室、切手倉庫、時計室、爲替貯金課、局内電話交換室、食堂、湯呑室、倉庫、洗面所、便所等

〔五階〕 2,817.14平方米

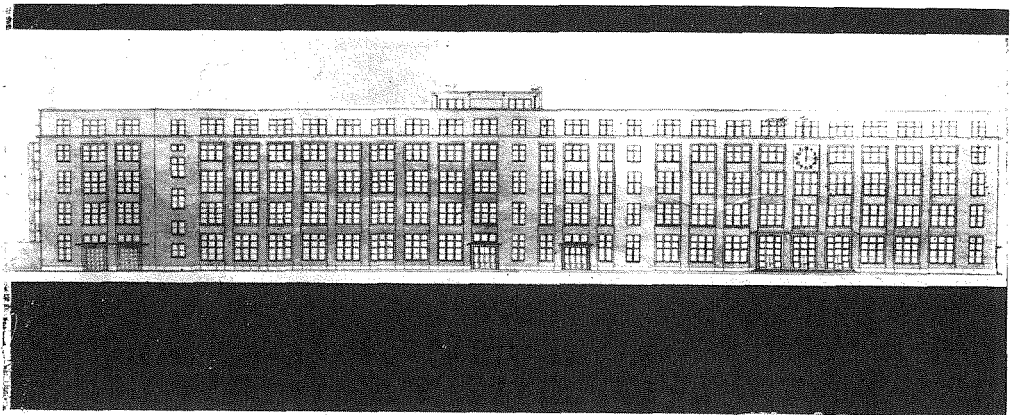
休憩室、宿直室、更衣室、物置、洗面所、便所等

〔六階〕 (塔屋) 216.00平方米

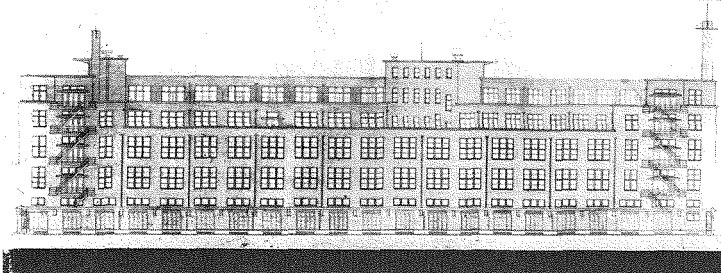
排氣室、エレベーター機械室、水槽室、階段室等

構造

〔基礎〕 地下6.10米總掘とし機關室等の部分は深さ7.10米掘下げ杭はベDESTAL



第一圖 正面姿圖



第二圖 背面姿圖

式鐵筋コンクリート杭長さ6.60米乃至9.40米のもの3,102本及松丸太長五米のもの728本打込み其上に鐵筋コンクリート礎盤を築造周圍は擁壁を廻らす
地下防水層は外防水としマルソイド、ダンプコース四層貼とす

〔主 體〕 鐵骨鐵筋コンクリート造
間仕切は鐵骨メタル、ラス張とす

外 部 仕 上

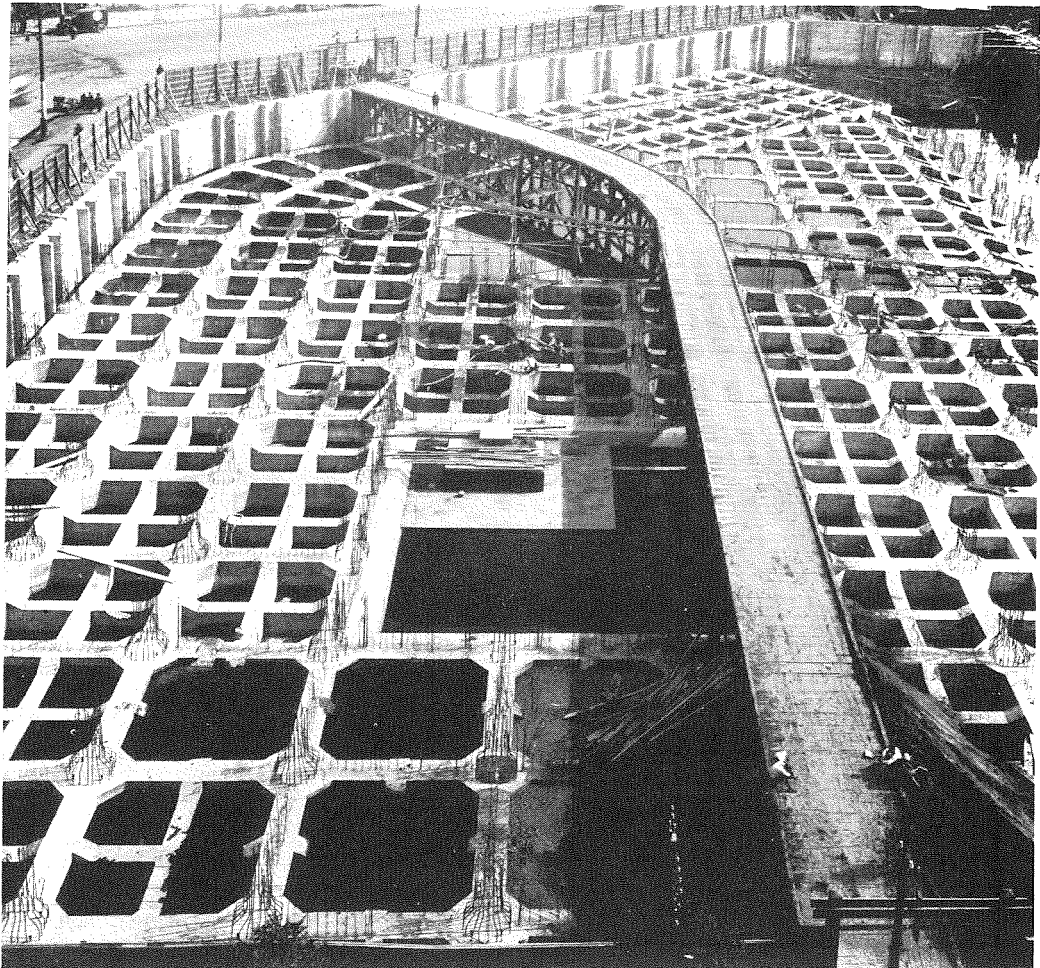
腰高約90厘米通及主要出入口周圍には水磨き小花崗石を用ひ夫以上の壁體全部は白色擬石タイル張とし窓及出入口には總て
(2) 中央局基礎盤

スチール、サツシ及スチール、ドアを用ひたり

スチール部分のペンキ色は全部純黒色としタイルの白色、小花崗石の鼠色と共に單一にして清楚なる色調を求めたり

内 部 仕 上

- (一) 各現業室の床はアスファルト、シート、腰モルタル塗、特に柱の腰廻りは全部鋼鐵板張とす、壁及天井共漆喰塗
- (二) 一般事務室は床リノリウム敷壁及天井共漆喰塗
- (三) 窓口事務室及公衆溜は窓廻り柱及腰廻りは黒大理石、床は夫々リノリウム



ム及モザイック、タイル敷、窓口、甲板は小花崗石水磨き、窓口格子はブロンズ製銀色仕上、室内の主なる色彩は黒、銀、白の三色とす

- (四)玄關は壁床共タイル張
- (五)廊下は一般にテラゾー床を用ふ
- (六)主要なる階段は踏面、蹴込及腰廻り共タイル張
- (七)各便所、洗面所の床はモザイック、タイル敷腰廻り白色ビトロガラス張
- (八)食堂は柱腰廻り床共タイル張
- (九)休憩室は壁紙張、一部畳敷
- (一〇)宿直室はリノリウム敷二重寢臺を備ふ
- (一一)局長室、會議室等は壁チーク材羽目張、寄木張床とす

暖房設備

獨逸ブデルス會社製汽罐11臺及宇野澤組鐵工所製復型真空唧筒2臺に依る低壓真空還水式蒸汽暖房装置とす、放熱器は各階事務室、現業室等に配位され、更に

現業室には42臺の天井懸吊型、窓口事務室及公衆溜には4臺の床据置型ユニット、ヒーターを以て暖房す

換氣設備

送風機4臺、排風機3臺を用ひ地階の各室五階宿直室の換氣を行ひ空氣はリードエアフィルターに依り洗滌し冬季は更にエロヒオン・ヒーターに依り加熱す

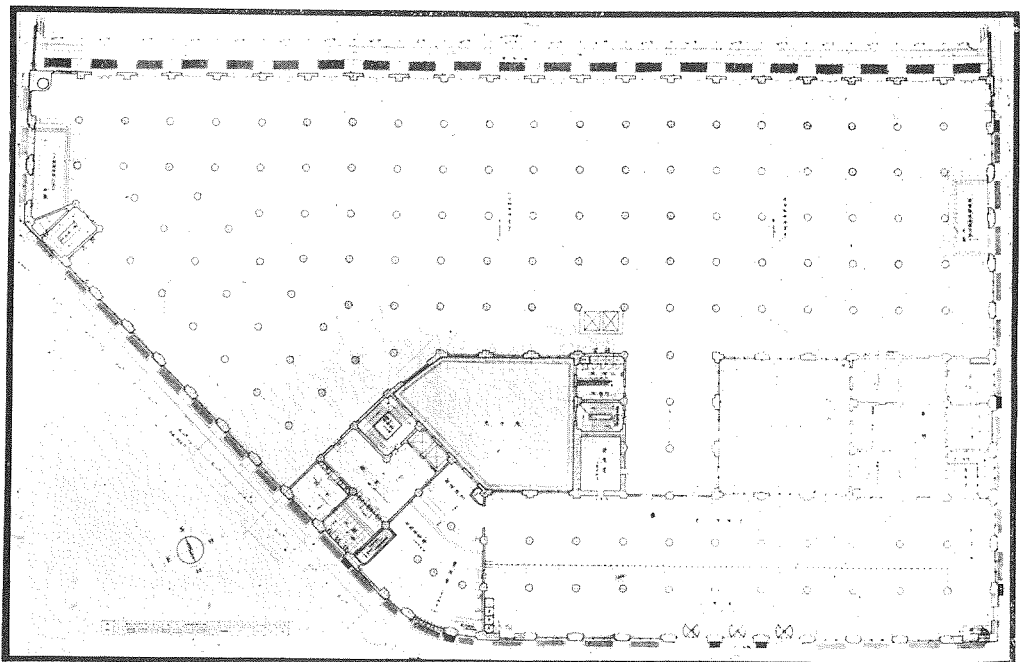
給水設備

飲料、厨房、洗面用には市水道水を、暖房、衛生等の諸設備其他の雑用には深さ70米一晝夜湧水量630立方メートルの鑿泉水を使用し之を屋上水槽に導きたる上各階に配給

給湯設備

香取式金時釜使用、各洗面所、浴槽等に給湯し厨房其他飲用には瓦斯竈使用す

第三圖 一階平面



排水設備

雨水及一階以上の雑用水、便所汚水等は各別の配管に依り直接市下水道に放流し地階の雑用水汚水は溜樋より唧筒を以て夫々自働的に市下水道に放流す

防火並に消火設備

全建物を各階に於て三乃至四に區劃し各境に大野式防火捲上戸を設備
消火栓は各階四ヶ所に配置

昇降機

積載量は、814疋、
速度毎分61米の人員用4基積載量1587疋、速度毎分45米荷物用2基、料理用2基

電氣設備

〔電 源〕 東京電燈より高壓二回線を地下線にて受電地階電力室にて電燈動力の爲め各300 K.V.A 3基10 K.V.A 3基の變壓器にて低壓とし地下電車の爲めに直流に變電し、別に停電時の點燈用として15K.V.A自働發電設備を装置す

〔電 燈〕 幹線を三相六線式、中幹線を单相三線式に依り配線し照明には主として丸型外球の器具を使用す

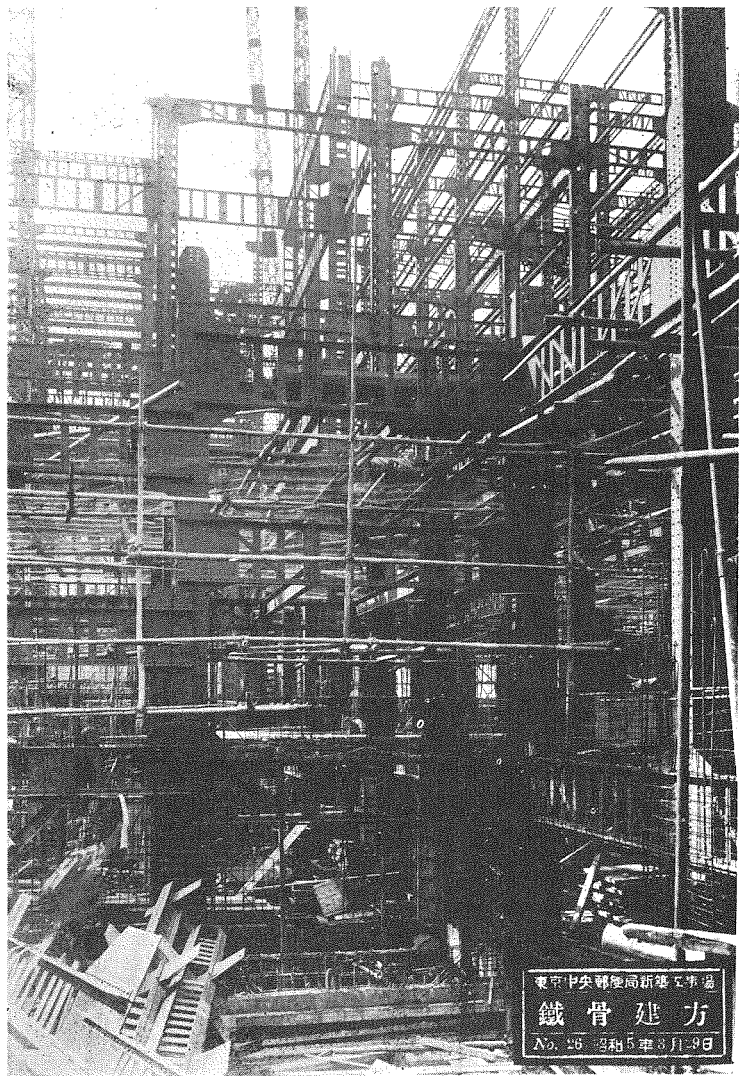
〔動 力〕 三相三線式にて昇降機、搬送設備、唧筒等に配電す

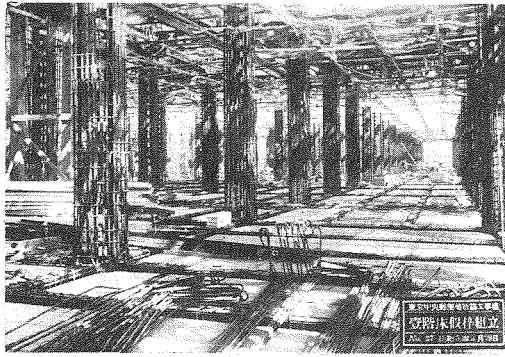
〔電 話〕 對自働共電式にして局線30回線を收容し局内約130個の電話機外に公衆溜には公衆電話4個設備す

〔電 鈴〕 事務用及非常用の二種を設備し非常用には火災報知機をも装置す

郵便物搬送設備

本局に於ける郵便物の取扱は地階、一、二
(3) 中央局鐵骨建方





(4) 壹階假柱組立

階及び三階の四階に亘り且つ取扱室の面積が17,500平方米にも達する故に、郵便物の運搬處理には出来るだけ機械力を應用し次の如く設備せり。

尙局内と東京驛との連絡は従來通り地下電車を使用するものとす

(一)小包郵便物處理

地下電車、自動車、自局引受及同大口引受の四種の経路によりて到着せる小包郵便物は先づ三階開糞區分部に送らる。

それが爲には電車便に對して地階電車到着

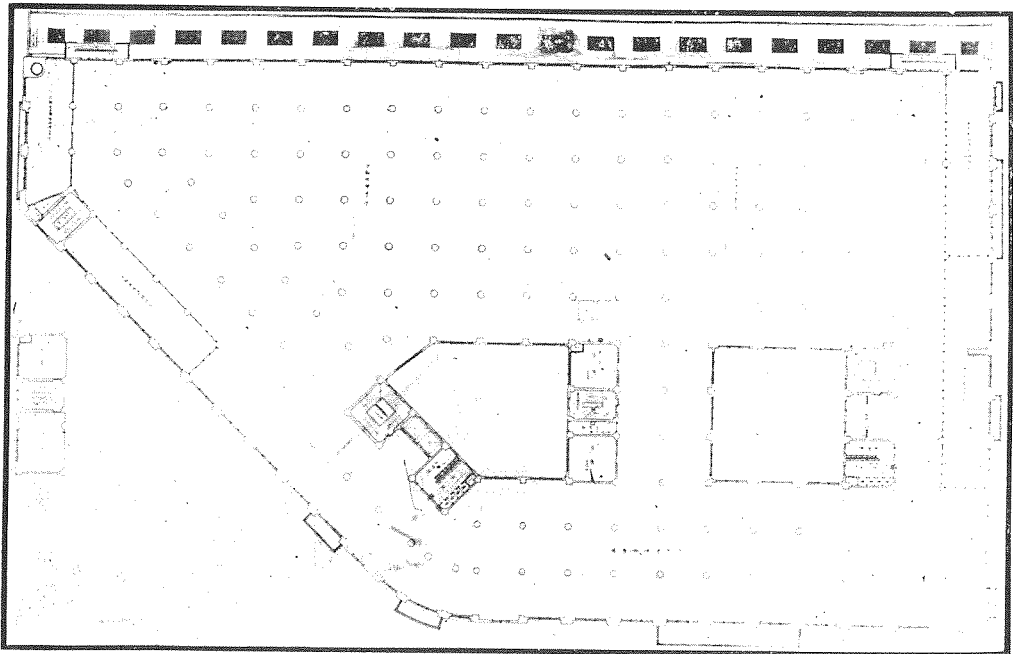
線に沿ひたる「鋼鐵コンベヤー」、「自働エレベーター」を又自動車便に對して「壁掛式轉子路」、「帶コンベヤー」、「自働エレベーター」を、又自局引受の分に對して「エレクトロボスト」及昇降機を設備せり。

開糞部より大區分臺に送る爲めには「帶コンベヤー」、這樋を利用す。

大區分臺は矩形に接続して走る四本の「帶コンベヤー」より成り、その中央空所は八個の這樋開口となれり。この這樋は三階天井裏にて「帶コンベヤー」這樋に接続して郵便物は二階細區分へ送らる。區分せられたる小包郵便物の内、自局配達の分を配達取扱室に送るために「帶コンベヤー」這樋を設備す。

又差立に際し地下電車に向けらるるものは「帶コンベヤー」這樋によりて地下電車積込床に送り、こゝより直接電車内へ送り込ませ、又自動車便によるものは這樋によりて中二階自動車積込床に送り、這樋にて自動車内へ積込むものとす。

第四圖 二階平面



(二)普通通常郵便處理

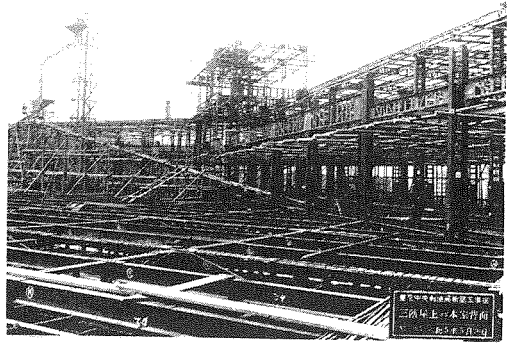
郵便局到着の経路は大體に於て小包と同様なり。即ち地下電車便は「鋼帶コンベヤー」「自働エレベーター」により、又自動車便の分は「壁掛轉子路」「帶コンベヤー」により夫々一階開囊部へ搬送さる。又取集の郵便物及大口引受郵便物は「サヅウエヤ」により夫々二階取揃臺及大物取揃區分臺へ送らる

又自局投函の郵便物に對しては自働開函装置を設備せり。

郵便差入口は公衆溜の内外二箇所に設けられ差入郵便物は何れも自働搬送設備によりて二階取扱室へ搬送さる。

開囊後襪越行囊の中地下電車に送る分は這種により地階電車積込床に送り自動車便に對するものは「自働エレベーター」によりて中二階自動車積込床に揚げる。又把束郵便物は這種より地階天井裏「帶コンベヤー」及「自働エレベーター」に「接続して二階天井下に達し「帶コンベヤー」這種を経て區分部に達する。

區分部では大區分、中區分、細區分共に帶



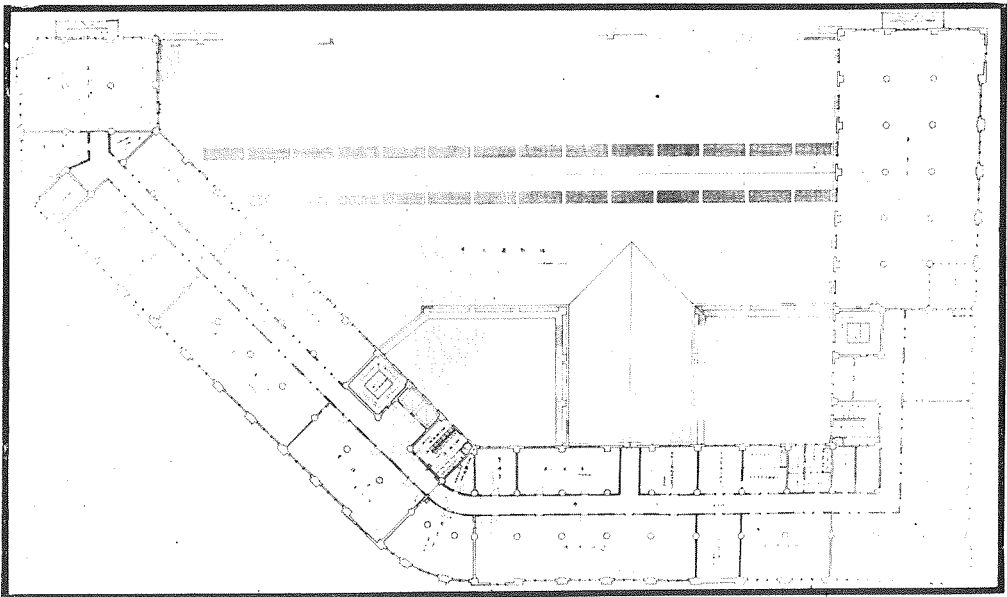
(5) 三階屋上より本館背面

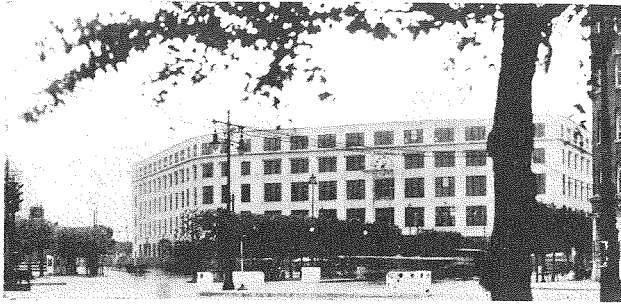
コンベヤーを設備す。自局配達の分は大區分後直ちに「エレクトロボスト」よりて一階配達取扱室へ送らる。又市内各局宛の分も「エレクトロボスト」によりて一階に達し「帶コンベヤー」にて區分せらる。

差立に際し地下電車便及自動車便は夫々「帶コンベヤー」這種によりて地階電車積込床及中二階自動車積込床に搬送す。

又市内の分は區分後「帶コンベヤー」へ「自働エレベーター」によりて中二階へ揚げる。年賀郵便は全然取扱を別にして二階及三階に臨時の作業室を準備し、郵便物搬送には

第五圖 四階平面





(6) 全 景

昇降機を使用す。

(三) 特殊通常郵便物處理

特殊郵便物の取扱室を二階北側に設く。郵便物到着経路は普通通常郵便と同様で、その爲めに「サウエヤ」「帶コンベヤー」之種昇降機を設備す。

差立にも「帶コンベヤー」之種を用ひ、市内及自局配達の方は「エレクトロボスト」によりて市内收囊部及配達室へ搬送す

(四) 外國郵便處理

外國郵便は間歇的に大量出入する爲め機械設備の利用率極めて低く、それが爲め主として手働的に處理する事とせり。

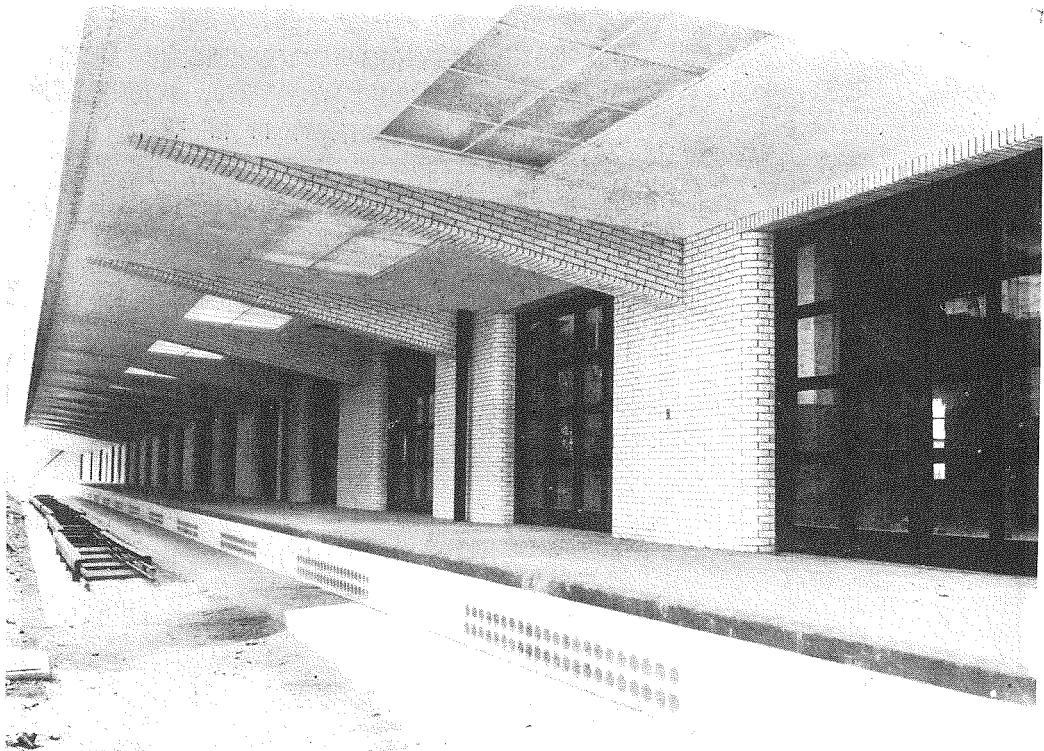
地階電車發着臺に到着せし外國郵便物は「コンベヤー」によらず、三輪車の儘地階床に引出し、牽引用鎖にて貨物昇降機に乗せ三階取扱室に達せしむ。

(五) 行囊整理清淨設備

使用行囊を整理清淨する爲め行囊整理室及同清淨室を地階に設けたり。各開囊部と地階行囊整理室とは之種にて連絡さる。

行囊整理室にて適當數集結せしものを天井裏「鎖コンベヤー」によりて行囊清淨室に送り、回轉筒内に入れ眞空唧筒にて塵埃を吸収する。清淨後の行囊は再び集結して整理室に返送し、修理の後保管室に貯ふ。又

(7) 郵便車發着臺



使用すべき空行囊は昇降機によりて一階及二階の收囊部へ送る

(六)電報處理

本局にては電報の受付及配達を行ふのみで送信及受信の事務は凡て東京中央電信局にて行ふ。その爲め兩局舎間には頼信紙及電信紙の往復の爲め氣送管を設備す。

電報受付口と三階同事務室間には帶「コンベヤー」「書類昇降機」を設備す

(七)收塵裝置

行囊殊に小包行囊は塵埃を含む事多く開囊の際極めて不衛生なるが爲め收塵裝置を設備せり。

即ち三階小包行囊開囊部作業床の下に眞空導管を設備し、適當な間隔毎に有孔板製の蓋を具備せる開口を設け塵埃を含める空氣を吸引す。この空氣は地階にて排氣機により塵埃を除去せる後屋外に放出せらる。

排氣量は水柱64耗の眞空で毎分 570 粒、電動機は15馬力のものを使用す

(八)機械設備の總括
以上の機械設備を總括すれば次の如し

帶コンベヤー(鋼、ゴム、麻を合せて)	1,556.5米
自動貨物エレベーター	11基
貨物昇降機	7基
サヴウエヤ	3基
鎖コンベヤー	1基
牽引鎖	2基
エレクトロボスト	4基
區分臺	2基

自働開函裝置	1基
轉子路	8基
之 樋	77基
積上機	2基
排氣機	1基
通常郵便取揃臺及押印設備	1基
同大區分機	1式

設計及監督

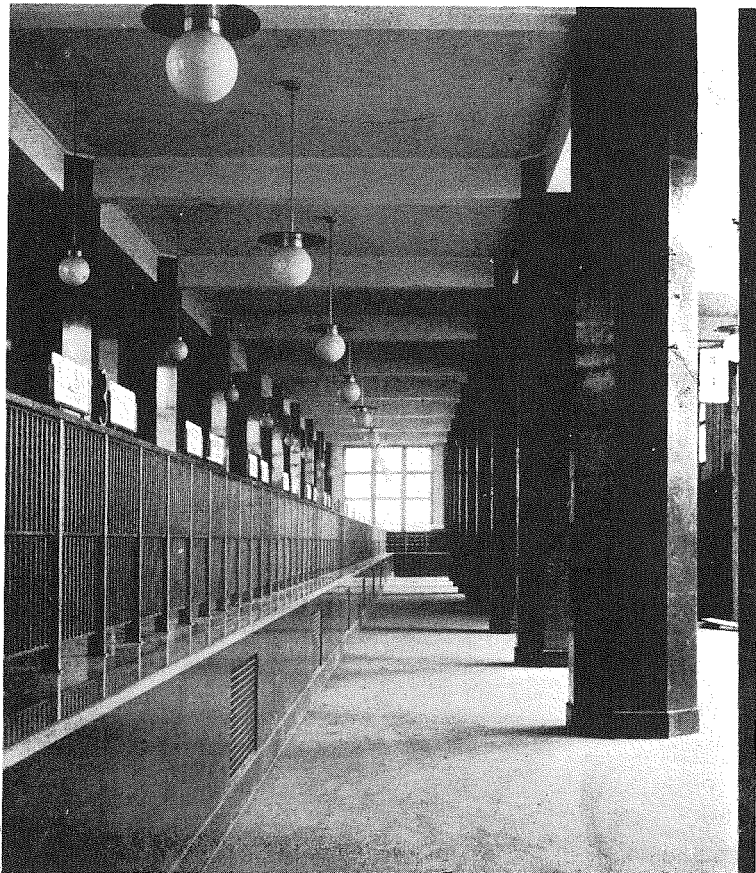
遞信省經理局營繕課

工 程

基礎杭打工事

起 工 昭和二年十一月二十三日
竣 工 同 三年五月 九日

(8) 一 階 公 衆 溜

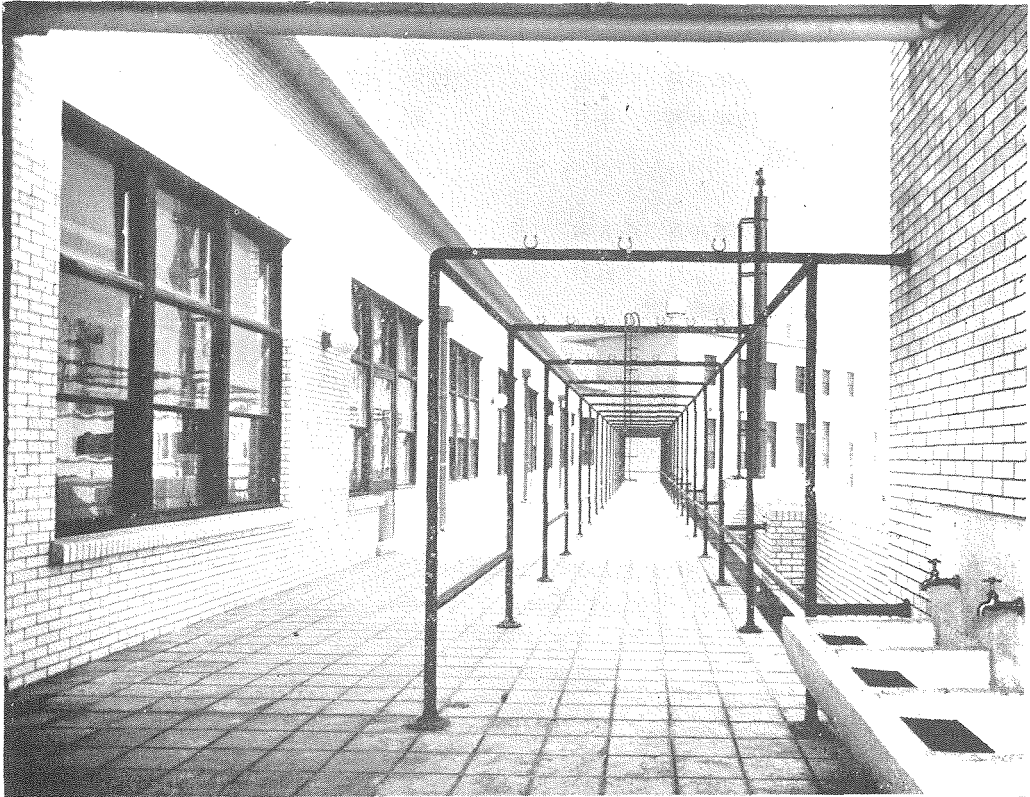




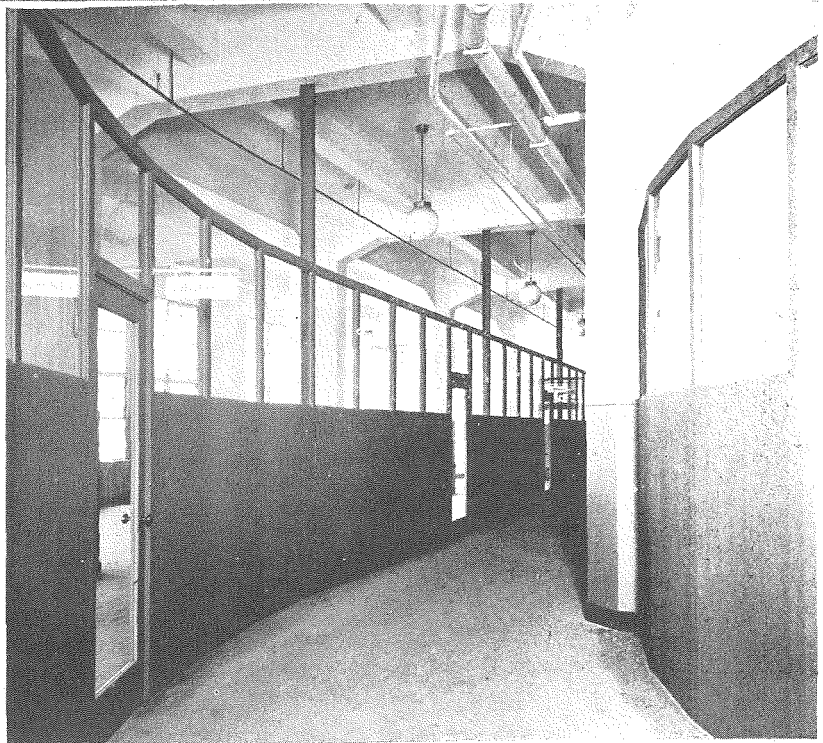
(9) 一階
現業室



(10) 一階
窓 口



(11) 四階
屋 上



(12) 二階現
業室一部廊下

施工者 東洋コンプレツソル會社
 礎盤工事
 起工 昭和 三年二月 一日
 起工 同 四年六月 十日
 施工者 錢高組
 局舎建築工事
 起工 昭和 四年八月 十五日
 竣工 同 六年十二月二十五日
 施工者 大倉土木株式會社
 電燈其他設備工事
 起工 昭和 五年六月 二日
 竣工 同 七年一月二十四日
 施工者 株式會社 弘電社
 瓦斯設備工事
 起工 昭和 五年六月 二日

竣工 同 六年十二月二十五日
 施工者 東京瓦斯株式會社
 煖房、換氣裝置工事
 起工 昭和 五年九月 十五日
 竣工 同 七年二月 十三日
 施工者 株式會社 東亞鐵工所
 郵便物搬送設備工事
 起工 昭和 六年七月 二日
 竣工 (豫定)同八年四月三十日
 施工者 株式會社 日立製作所
 受電變壓變電工事
 起工 昭和 六年九月 十一日
 竣工 同 七年八月三十一日
 施工者 株式會社 弘電社
 終

(13) 私 書 函

